

「永野小学校薩摩の近代化を支えた永野金山学習の取組」

- 1 学校名 さつま町立永野小学校
- 2 学年・人数 第5・6学年（計10人）

3 日時・場所

(1) 学習会の日時・場所

令和元年10月～令和2年2月 総合的な学習の時間 ・ 教室
令和2年2月22日（土） 語り部リハーサル ・ 観音滝等

(2) 発表の日時・場所

令和2年2月23日（日）永野ウォーキング大会語り部 ・ 観音滝等

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

- (1) 名称・時代 ながのきんざん 永野金山 ・ 1640年（寛永17年）～1953年（昭和28年）

(2) 特徴

永野金山は、江戸時代には「西の永野、東の佐渡」と言われ、最盛期には、日本一の産出量を誇った金山です。明治時代、島津斉彬が進めた「集成館事業」の財源となり、薩摩の近代化を支えました。胡麻目坑口に彫り込まれた、島津家の丸十字の紋章がそのことを裏付けています。永野金山史跡群には、胡麻目坑跡、鉱業館跡、夜学校跡、鉱石運搬電車が通った鉄橋跡（橋脚）などがあります。五代龍作（五代友厚の娘婿）や、西郷菊次郎（西郷隆盛と愛加那の長男）が永野金山の発展に尽くしました。

5 保存会や地域との連携の具体

私たちが住むさつま町永野では、永野金山の史跡を生かそうと「永野ウォーキング大会」が毎年2月の第4日曜日にあります。15回目となる今年は2月23日に開催されます。例年、永野小の5・6年生が語り部隊となり、コース内の「胡麻目坑跡」、「夜学校跡」、「鉄橋跡（橋脚）」、「鉱業館跡」のポイントでガイドを務めてきました。今年はコースが変わり、観音滝周辺の史跡を回ります。この観音滝も永野金山と関わりがあるので、5・6年生の語り部隊は、観音滝に残された史跡等に加え、永野金山についても、約500人の参加者に説明します。

この語り部のガイドに当たって、総合的な学習の時間「永野金山、西郷菊次郎学習」で、金山公民会の方々やさつま町文化遺産ガイドの方に御指導をいただいています。また、永野ウォーキング大会では、主催する永野区公民館や校区の有志の方々の御協力をいただいて、ガイドを行っています。

6 活用の取組の工夫した点

社会科の学習「日本の近代化（八幡製鉄所や国営富岡製糸場など）」や、「薩摩の近代化（島津斉彬の集成館事業）」と関連付けて、永野金山の歴史的な価値に気付かせるようにしました。また、偉人ゆかりの人物「西郷菊次郎（西郷隆盛と愛加那の長男）」と「五代龍作（五代友厚の娘婿）」が永野金山の近代化に貢献しことにクローズアップして、歴史を身近に感じ、歴史への関心を高められるようにしました。

調べたことの発表では、人物や史跡の写真等のパネルを提示して説明（ガイド）し、学び方（発表の仕方）も学べるようにしました。

7 取組の様子（H31永野ウォーキング大会語り部の様子）



胡麻目坑口でのガイドの様子



鉄橋跡（橋脚前）でのガイドの様子



鉱業館跡でのガイドの様子



夜学校跡でのガイドの様子

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

(1) 児童

永野金山やその発展に尽くした人々の苦勞，努力を知りました。永野金山が薩摩の近代化を支えたことや，時代に先駆けて電力を使っていたこと，立派な建築技術があったことなど，驚くことがたくさんありました。西郷隆盛や五代友厚など，偉人ゆかりの人物が永野金山を発展させたことも誇りに思いました。永野の歴史はとても素晴らしいと実感しました。

(2) 保護者

約500人という大人数を相手に堂々とガイドを務める子供の様子を見て，成長を感じました。今後も多くの経験を積んでたくましく育ててほしいです。

(3) 保存会

この地域に歴史的価値のある産業遺産があることを知って，故郷に誇りをもって，地に足の付いたたくましい生き方ができる子供たちに育ててほしいです。

(4) 教職員

ウォーキング大会での発表に向けて，総合的な学習の時間を中心に，練習に取り組んできました。参加者がとても喜んでくれる取組であり，子供たちのやり遂げた後の達成感や自信につながっている取組です。